

「よみがえれ!新浦安駅前『公共広場』大作戦」の内容と方法 ～市民まちづくり活動と学校教育との連携に関する研究(その2)～

keyword: 市民まちづくり活動 ワークショップ 市民投票

正会員○小林 裕*1 同 佐久間康富*4
同 梶嶋 邦江*2 同 土久 菜穂*5
同 細田 祥子*3 同 横堀 肇*6

1. はじめに

前報で「よみがえれ!新浦安駅前『公共広場』大作戦」(以下、「大作戦」)の背景と目的を述べた。本報では「大作戦」の展開の方法であるワークショップ、提案展示、市民投票を取りあげ、それぞれの内容、方法並びに成果及び課題を明示する。さらに、シンポジウムによる総括を踏まえ、市民まちづくり活動における今後の課題をまとめる。

2. ワークショップ

2-1. ワークショップの内容と方法

自転車問題を視野に入れながら、新浦安駅前広場をフィールドに、公共広場のあり方、使い方について考え提案することを目的とする「大作戦」は、4回のワークショップ活動によって展開した。「公共性」をテーマとすることから、多様な市民への参加を開き、その意見交換から生まれてくるものに期待した。また、その議論と提案の結果については市民投票という形で評価し、評価の高い提案について市へ実現を働きかける、コンペ方式にした。

一般市民の参加者は、新聞(一般紙、ミニコミ紙等)などの各種メディアによって募った。

2-2. 各回ワークショップの結果

1) 第1回ワークショップ: 課題の発見

まず駅前広場を参加者全員で歩く。そのことによって、広場の現状の確認を確認した。地図を持ちながらのサーベイは、知識・情報レベルの異なるメンバー間での観察事項の検証を容易にしたといえよう。



図1. ジェネラルサーベイの様子

その後、小学生の活動成果の発表と中学生の活動状況の発表を通して、取り組みの進捗を共有した。

その後、サーベイの結果をふまえて現状の課題について話し合った。その結果、第1回の結論として3つのキーワード(特定財源自転車税、ちゃんと使えばきれいな駅前広場、ちゃんと使える駐輪場)が生まれた。

2) 第2回ワークショップ: 課題の共有

まず、前回と同じく小学校の取り組みの報告と中学生の取り組みの報告により、進捗の確認を行った。

「広場の概念」について、学識経験者の話を聞くことに

よって、広場の公共性の由来を学習した。人が居て、くつろいでいて、そこに居ることを楽しんでいることが広場の基本になるということを経験した。

その後、第1回のフィールドワークに引き続き、現状の問題点を整理し解決方向を探った。公共広場における違法駐輪などの問題の解決には、違法行為を引き起こす原因を除去する(駐輪場を増やす等)ことや、ペナルティ強化と別に魅力的なインセンティブの付与策が提案された。

3) 第3回ワークショップ: 提案づくり(1)

やはり、小学生の取り組みの報告からはじめ進捗の報告を行った。提案が煮詰まってくる段階において、全体での共有を大切にしたい。

次に、「広場(空間)の使い方」について、専門家の話を聞いた。具体的な広場利用のあり方や、駐輪対策の事例についてのヒントを共有した。

そして、前回に引き続き課題の整理を踏まえ提案内容を作成した。コミュニティバスによる中量輸送サービスシステムと、レンタサイクルシステムとの組み合わせ案や、広場を気持ちよく使うためのルール作り案、イベントによる広場空間の活性化を図る案、並びに人がほっとできる楽しい広場案等に絞り込んだ。

4) 第4回ワークショップ: 提案づくり(2)

これまでの小学校の成果発表と中学生の成果発表を行い、成果の共有を行った。

引き続いて、それぞれのグループにおいて、提案の細部の仕上げを行った。グラフ、模型、写真などによる市民に理解されやすいプレゼンテーションとなった。

3. 作品展示と市民投票

ワークショップを通して製作した提案11作品(一般の部7作品、小学生の部4作品)は、以下の概要で展示した。作品展示は、一般市民に対するワークショップ参加者からのメッセージ伝達の期間・空間であり、市民投票はより広い市民意向集約の機会であると同時に、間接的な「大作戦」へ



図2. 展示会・市民投票の様子

表3. 展示会・市民投票の概要

日時	2001.11.1-7	方法	シール投票(一人3票)
場所	MONAスパイラルホール (新浦安駅前)	総投票数	2,684票

表4-1. 投票結果（一般の部）

作品名	得票数	賞
広場班	243票	市民賞
みどりの丘班	241票	モナ賞・ナチュラルで賞
買い物券案	240票	アトレ賞・女心をくすぐるで賞
入船中学校案	209票	サーカス団賞・自転車に名前を書きま賞
ルール班（空気抜く蔵）	207票	サーカス団賞・ルール破りはこらしめま賞
自転車班（コミュニティバス）	159票	サーカス団賞・ネットワークしま賞
広場班（ほっとする空間）	70票	サーカス団賞・アットホームにいきま賞

表4-2. 投票結果（小学生の部）

作品名	得票数	賞
恐竜	536票	模型がすばらしかったで賞
浦安ランド	454票	グッドデザイン賞
浦安改造	187票	みんなの願いをこめたで賞
地球ふれあい	138票	演技力が豊かだったで賞

の参加を呼びかける仕掛けでもあった。

3-1 市民投票の結果

一週間の投票期間中、投票に参加した市民総数は895名、その結果は表-4に示すとおりである。当初、小学生作品も中学生、大人と同等に取り扱う予定であったが、展示の初期段階にルールを無視した投票が行われたために、小学生の部を設け別扱いとした。これは投票結果に信頼性を担保するためにとった、やむをえない処置である。

投票結果に関しては、平日は現行の駐輪スペースとして広場を利用する案（広場班）がもっとも得票数が多く、ついで貴重な駅前広場に「みどりの丘」を築き自然空間として再生させる案（みどりの丘班）の得票が多いなど、市に対し寄せられる苦情などに鑑みて意外な結果となった。

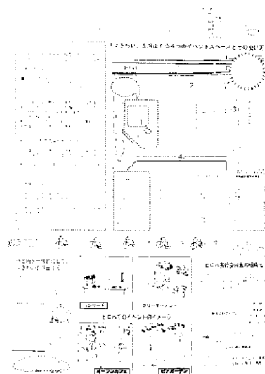


図3. 広場班の案

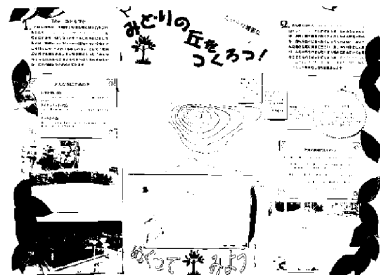


図4. みどりの丘班の案

3-2 作品展示、市民投票に関する問題・課題

作品展示、市民投票は駅前の商業ビルを使っておこなわれ、通勤や買物等で行き来する市民の足をとめさせるには、優れた環境下で行われた。投票者数の多さは、そのひとつの反映であったといつてよい。

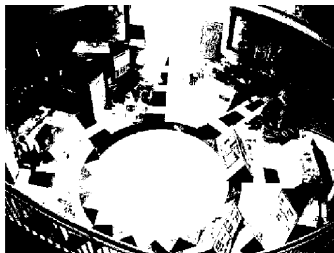


図5. 展示会の様子

また展示会場では、メンバーと長時間議論をする市民も多く、質問も多数投げかけられ、作品展示は予想した以上に強い市民の関心を得たといえよう。

しかし、上述のとおり小学生の部を別途設ける結果となった投票方式、投票管理の方法の問題は今後の課題であり、また、展示・投票に示された市民の関心の強さは、反面、それを直接的な参加、すなわちワークショップへの参加に結び付けられなかったワークショップ内容や方法、広報・宣伝の方法などに対する再検討を求めているといえよう。

4. 「公共広場」シンポジウム

「大作戦」のまとめとして、11月10日に「公共広場」シンポジウムを開催し、あわせて市民投票の結果発表と表彰式をおこなった。シンポジウムは都市計画・まちづくり・哲学の各分野の学識経験者および浦安市長がパネリストで参加、普遍的問題として広場利用とデザイン、公共性、自転車問題などが議論された。

このシンポジウムに関しては、行政の長である市長が参加したことが特筆に値する。市長はワークショップにも参加、展示会でも熱心に作品を見るなど、行政が抱える自転車問題の深刻さもあって、「大作戦」には強い関心を寄せてくれた。

しかし、一貫して市民の自主活動として行われた「大作戦」に対しては、当初、行政の対応は必ずしも好意的だったとはいえない。ワークショップが回を重ねる中で、また、作品展示を実際に目にしながら、「大作戦」に対する行政の関心、信頼も高まっていったと解せよう。

*1 まちづくりプランナー Town and community planner

*2 埼玉大学教養学部教授、工博 Prof.Of Saitama Univ. D.Eng

*3 早稲田大学大学院修士課程 Graduate School of Sci.and Eng., Waswda Univ.

*4 早稲田大学大学院博士課程、工修 Graduate School of Sci.and Eng., Waswda Univ.

*5 浦安市役所、工修 Urayasu Municipal Office, M. Eng.

*6 都市基盤整備公団総合研究所・工博 UDC Research Institute